

## I. 平成 21 年度活動概要

平成 19 年度に、従来の独立修士課程環境科学研究科(1977 年度設置)は、博士課程生命環境科学研究科の前期課程環境科学専攻に移行されると同時に、後期課程持続環境学専攻が新設されました。したがって、今年度は、生命環境科学研究科持続環境学専攻の第 1 期生を博士修了生として送り出しました。

環境科学専攻(環境科学研究科の生命環境科学研究科への移行組織)の目的は、人間生存の基盤である環境にかかわる諸課題に高度の学問水準をもって有効適切に対処しうる人材を、文理融合型の学際基礎教育によって養成することにあります。循環環境学と環境共生学の 2 領域に幅広く重点化しつつ、学生の個性を重視した個別研究を熟成させるカリキュラムによって、グローバル＝ローカル(グローカル)な視点をもって環境系課題に柔軟に対応できる高度職業人や研究者の学際基礎の教育を行います。入学試験方法も、一般入試や連携大学院方式のみならず、留学生や社会人を対象とした社会人特別選抜や、留学生と日本人学生を対象として英語で授業を行う国際連携環境プログラム(ICEP)を実施し、環境系課題に関心を持ち、環境分野の専門家として活躍する意欲をもつ人材を多様な入試方法で受け入れています。本年度は JICA(国際協力機構)の JDS(留学生支援無償事業)と連携して 6 名の留学生を受け入れました。

持続環境学専攻は、「地球レベルと地域レベルの人間環境の連環的相互作用の動態とそこに潜む持続可能性のメカニズムを解明して持続可能な環境を体系化する」教育研究の拠点です。持続環境学は、フィールド・サイエンスの実践知と文理融合知を幅広く学際深化し、その高度化によって、持続可能で良好な生活質と安全・安心をそなえた地域環境を実現し、究極的には地球環境の制御的安定を目指すものです。本専攻では、持続可能性の観点から環境課題を持続環境学として重点化し、個別研究の高度な研究指導と学際深化を行なう拠点として「持続循環環境学」、「持続環境共生学」、「人間環境持続創成学領域」の 3 領域を設定して、学究型研究者と実務型研究者を養成します。こうして、国際社会や地域社会の中で持続環境を実現できる有能な人材を養成します。

両専攻ともに、一般入試や連携大学院方式のみならず、留学生や社会人を対象とした特別選抜も実施して、環境系課題の問題発見とその解決に意欲をもつ人材を受け入れて、育成しています。前期専攻では、学外出身者が約 8 割を占め、後期専攻では、留学生、社会人あわせて約 7 割を占めています。

なお、連携大学院方式での入学者はありませんでしたが、環境科学専攻で 1 名が修了しました。

本年度は、文部科学省が実施する平成 21 年度科学技術振興調整費「戦略的環境リーダー育成拠点」に応募した「環境ディプロマティックリーダーの育成拠点」プログラムが採択され、その初年度にあたるため、本プログラムのカリキュラム編成や担当教員の採用等、立ち上げ作業に取り組みました。学生の受け入れは平成 22 年度 4 月からとなりますが、本プログラムはアジア・アフリカ諸国の留学生および日本人学生を対象として、水資源・水処理技術・水環境政策、生物多様性・バイオ資源利用、公衆衛生・疫学・医療政策など、環境技術・環境政策に精通すると共に、地域の実情に即した管理に関する政策提言、立案、実務等ができ、また、政策を実現するために国際交渉が出来るリーダーを育成する学際プログラムです。修了者には、修士号もしくは博士号が授与されます。

また、(財)砂防フロンティア整備推進機構からの寄附金を受けて寄附講座「環境防災学」を設置し、平成 22 年 4 月から学生受け入れを開始する事になりました。このため、寄附講座担当教員の採用やカリキュラム編成等に取り組みました。本講座は、土砂災害対策等の環境防災を志す学生や国内外の環境防災業務に従事している社会人を対象として、環境防災に係る高度専門技術者を養成する事を目的にしています。修了者は、日本のみならず災害に悩む発展途上国の環境防災の第一線で活躍されることが期待されています。このため、環境防災に係わる専門家による調査技術、対策技術から政策論、法令論まで幅広い範囲にわたり基礎から応用上の課題と解決手法に至るまで学際的・実践的な講義を行い、また、実践的なフィールド研究指導を行う事になっています。修了者には、修士号もしくは博士号が授与されます。

本専攻カリキュラムの特徴の一つである実践実習では、環境科学専攻の 3 名が国内 3 機関でそれぞれ実習し、平成 20 年度の 3 名 4 機関とほぼ同じですが、持続環境学専攻での該当者はありませんでした。また、海外インターンシップは、環境科学専攻でインドネシアに 8 名、中国に 4 名、本年度に新たに開始したブータンに 7 名、また持続環境学専攻でブータンに 1 名が渡航しそれぞれ実習しました。

入学試験は10月期と2月期に実施したほかに、ICEP(国際連携環境プログラム)に準拠して、同第3期選抜試験を中国高水準大学公派計画に対応して2月に、また同第4期選抜試験をJDS関連に対応して3月にそれぞれ実施して、国際連携にもとづく留学生を積極的に受け入れました。

平成22年度入試(平成21年度実施)に関しては、環境科学専攻(定員84名)では志願者数が102名(前年度111名)で入学者が79名(前年度94名)であり、持続環境学専攻(定員12名)では志願者数が18名(前年度12名)で入学者数が18名(前年度11名)でした。環境科学専攻では入学者が昨年度より大幅に減少し、一方、持続環境学専攻では激増して、今後の推移を見守る必要がある。

特に、留学生の入学者が環境科学専攻では23名(前年度14名)、また持続環境学専攻では11名(前年度4名)で、それぞれ昨年度とは対照的な変動が見られた。

なお、主な年間行事は以下のように行われました。

- 4月 環境科学専攻と持続環境学専攻： 入学、新入生・在学生ガイダンス
- 5月 環境科学専攻と持続環境学専攻： 修了予定者(環境科学専攻)の研究計画書提出
- 6月 環境科学専攻と持続環境学専攻： 環境系専攻案内、要覧、年報の発行、  
・1年次生指導教員決定(環境科学専攻)
- 10月 環境科学専攻と持続環境学専攻： 10月期入学試験(一般、社会人および外国人留学生)、  
・修士論文分野別中間発表(環境科学専攻)
- 1月 環境科学専攻： 修士論文提出(環境科学専攻)  
持続環境学専攻： 博士論文審査手順の公表
- 2月 環境科学専攻： 修士論文公開審査、修士論文の可否判定(環境科学専攻)  
環境科学専攻と持続環境学専攻： 2月期入学試験、ICEP第2期入学試験
- 3月 環境科学専攻： 修了式と学位授与(環境科学専攻)  
環境科学専攻と持続環境学専攻： ICEP第3期入学試験

## 1. 学事(平成21年度)

環境科学専攻；

### (1) 入学等

4月入学者：95名(うち外国人留学生15名、社会人9名)

8月入学者：6名

研究生受入数：7名

内訳：

日本人研究生0名、国費外国人留学生0名、私費外国人留学生7名、特別研究学生0名

科目等履修生：0名(日本人0名)

### (2) 修了および退学

7月修了者 2名

3月修了者 88名

退学者 4名

除籍者 0名

### (3) 平成22年度入学試験と入学者

10月期入試：志願者 86名、受験者 81名、合格者 76名(外国人留学生 16名)

2月期入試：志願者 16名、受験者 15名、合格者 13名(外国人留学生 7名)

ICEP入試(2学期入学):志願者 11名、受験者 11名、合格者 11名(外国人留学生 11名)

合計:志願者 113名、受験者 107名、合格者 100名(うち外国人留学生 34名)

平成21年度の入学者(2学期入学予定者も含む)101名

持続環境学専攻;

(1) 入学等

4月入学者: 10名(うち外国人留学生3名、社会人2名)

8月入学者: 4名(うち外国人留学生4名)

研究生受入数: 0名

科目等履修生:0名

(2) 修了者

5名

(3) 平成22年度入学試験と入学者

10月期入試:志願者 13名、受験者 13名、合格者 13名(外国人留学生 7名)

2月期入試:志願者 5名、受験者 5名、合格者 5名(外国人留学生 2名)

ICEP入試(2学期入学):志願者 0名、受験者 0名、合格者 0名(外国人留学生 0名)

合計:志願者 18名、受験者 18名、合格者 18名(うち外国人留学生 9名)

平成21年度の入学者(2学期入学予定者も含む) 14名

## 2. 専攻の編成(括弧内は所属専攻略称)

(1) 教員会議構成員(専攻教員会議承認)73名

### 教授

足立泰久(生圏)	石井哲郎(社医)	内山裕夫(持続)	大澤義明(社シ)
大原利眞(連携)	大村謙二郎(社シ)	小場瀬令二(社シ)	恩田 裕一(生共)
金保安則(社医)	木村富士男(地環)	熊谷嘉人(社医)	小林勝一郎(持続)
佐藤 忍(生共)	佐藤 俊(持続)	佐藤政良(生圏)	白岩義博(情生)
杉浦則夫(生産)	杉田倫明(地環)	高野裕久(連携)	田瀬則雄(持続)
田中 博(地環)	土居修一(国地)	土屋尚之(社医)	張 振亜(持続)
中村 徹(国地)	沼田 治(構生)	野原恵子(連携)	濱 健夫(持続)
林 陽生(持続)	東 照雄(生圏)	氷鮑揚四郎(持続)	福島武彦(生共)
藤川昌樹(社シ)	増田美砂(持続)	松崎一葉(社医)	松本 宏(生機)
宮本邦明(持続)	吉野邦彦(社シ)	若杉なおみ(持続)	渡邊和男(構生)
渡邊 信(構生)	渡辺 守(持続)	以上42名	

### 准教授

浅沼 順(地環)	伊藤太一(持続)	植田宏昭(持続)	上野健一(地環)
遠藤崇宏(持続)	大橋 順(社医)	風間計博(歴人)	梶山幹夫(国地)
上條隆志(国地)	中谷清治(化学)	佐藤親次(社医)	菅田誠治(連携)
田村憲司(生圏)	辻村真貴(持続)	奈佐原頭朗(持続)	野村暢彦(持続)
野本信也(化学)	廣田 充(持続)	松下文経(生共)	山路恵子(持続)
渡辺 俊(社シ)	以上21名		

## 講師

青木優和 (構生) 島田秋彦 (持続) 日下博幸 (地環) 藤井さやか (社シ)  
村上暁信 (社シ) 蕨 栄治 (社医) 以上6名

## 助教

松井健一 (持続) 戸崎裕貴 (持続) 新開泰弘 (社医) 孫 暁剛 (持続)  
以上4名

## (2) 研究指導担当教員 60名

浅沼 順	足立泰久	石井哲郎	伊藤太一	井上健一郎	植田宏昭
上野健一	内山裕夫	遠藤崇宏	大澤義明	大原利真	大村謙二郎
小場瀬令二	恩田裕一	風間計博	梶山幹夫	金保安則	上條隆志
木村富士男	熊谷嘉人	小林勝一郎	佐藤 忍	佐藤 俊	佐藤親次
佐藤政良	白岩義博	杉浦則夫	杉田倫明	高野裕久	田瀬則雄
田中 博	田中正秀	田村憲司	辻村真貴	張 振亜	土居修一
奈佐原顕郎	中谷清治	中村 徹	沼田 治	野原恵子	野村暢彦
野本信也	濱 健夫	林 陽生	東 照雄	氷鮑揚四郎	福島武彦
藤川昌樹	増田美砂	松崎一葉	松本 宏	宮本邦明	吉野邦彦
山路恵子	若杉なおみ	渡邊和男	渡辺 俊	渡邊 信	渡辺 守

## (3) 授業担当教員(研究指導担当教員および非常勤講師を除く) 7名

### 教員会議構成員

青木優和 菅田誠治 島田秋彦 藤井さやか 松井健一 松下文経  
蕨 栄治

## (4) 非常勤講師

小山内信智	(国土交通省国土技術政策総合研究所危機管理技術センター防災研究室長)	環境リスク論
竹本明生	(環境省地球環境局環境保全対策課課長補佐)	環境政策論
水谷知生	(環境省自然環境局野外生物課外来生物対策室長)	環境政策論
森下 哲	(環境省環境保健部環境リスク評価室長)	環境政策論
柳 憲一郎	(明治大学法科大学院法務研究科教授)	環境法論
古川壮一	(日本大学生物資源科学部食品生命学科専任講師)	環境リスク論
根木桂三	(環境省リサイクル推進室)	環境政策論
上田康治	(環境省地球環境局地球温暖化対策課)	環境政策論

## (5) 職員

準研究員	: 李 盛源	浅野真希	小山雄資(転出)
技術職員	: 腰塚昭温	竹川雅実	
事務職員	: 吉田路子	秋葉美代江	
事務補佐員	: 大山恵子		
EDL	: 加藤美代子・長瀬梨恵		

### 3. 役割分担

#### 全学関連の選出委員

持続環境学専攻長(環境科学専攻長を兼務)	内山裕夫
教員会議規則第5条に基づき研究課長が指名する教員	濱 健夫
就職委員会議委員	林 陽生
大学院教育改革委員会委員	内山裕夫
キャリア支援委員会委員	島田秋彦

#### 生命環境科学研究科内委員(◎印は委員長)

人事委員会委員	内山裕夫
運営委員会	内山裕夫
教務委員会	張 振亜
学生相談委員会委員	小林勝一郎
環境安全委員会委員	野本信也(廃棄物)、小林勝一郎(毒劇物)、野村暢彦(微生物)、 奈佐原顕朗(安全衛生)、辻村真貴(放射線)、内山裕夫(防災)
公開講座委員会委員	奈佐原顕朗
生命環境科学研究科入試実施委員会委員	◎奈佐原顕朗、熊谷嘉人、吉野邦彦、内山裕夫
広報委員会委員	濱 健夫
FD委員会	伊藤太一

#### 環境科学専攻・持続環境学専攻内委員(◎印は委員長)

人事等検討委員会	◎内山裕夫ほか・旧3領域各2名(計7名以上)
カリキュラム委員会	◎張 振亜、渡辺 守、野村暢彦、吉野邦彦、松井健一、林 陽生
教科世話人	石井哲郎(フォーラムⅠ)、松井健一(フォーラムⅡ)、伊藤太一(フォーラムⅢ) 植田宏昭(循環概論)、野本信也(共生概論)、松井健一(倫理概論)
実習委員会	◎植田宏昭、松井健一、島田秋彦、(浅野眞希)
実践実習開拓委員会	◎宮本邦明、氷鮑揚四郎、野村暢彦、吉野邦彦
予算委員会	◎伊藤太一、奈佐原顕朗、山路恵子、島田秋彦
広報・IT委員会	◎濱健夫、奈佐原顕朗、山路恵子、野村暢彦、内山裕夫、 (竹川雅実・李 盛源)
就職委員	島田秋彦、内山裕夫
部屋利用WG(改修工事担当)	◎氷鮑揚四郎、林 陽生、小林勝一郎、濱 健夫
入学試験委員	◎奈佐原顕朗、熊谷嘉人、吉野邦彦、内山裕夫
国際連携環境プログラム委員会	◎増田美砂、辻村真貴、張 振亜、吉野邦彦、松井健一、氷鮑揚四郎、 内山裕夫、(李 盛源)
安全管理委員会	◎野本信也、小林勝一郎
学生相談推進室	◎小林勝一郎、山路恵子、張 振亜、(李 盛源、浅野眞希)
環境マイスター委員会	◎渡辺 守、田村憲司
学生支援委員会(TFワークグループ)	◎増田美砂、野村暢彦、熊谷嘉人
学生コンパ担当研究室	林 陽生 研究室、張 振亜 研究室

演習評価・修士論文審査委員会  
外部資金企画委員会  
寄付講座WG  
書記

◎内山裕夫、宮本邦明、山路恵子、林 陽生、植田宏昭、張 振亜、  
吉野邦彦、各領域2名、(腰塚昭温)  
◎宮本邦明、佐藤 俊、内山裕夫  
◎奈佐原顕朗、松井健一

#### 4. 人事異動

##### 着 任

平成22年1月15日 孫 暁剛 准教授  
平成22年3月1日 遠藤崇宏 准教授  
平成22年3月16日 若杉なおみ 教授

##### 退 職

平成21年6月1日 小山雄資 鹿児島大学・助教（転出）  
平成22年3月31日 井上健一郎 准教授（退職）

##### 定年退職

平成22年3月31日 佐藤 俊

#### 5. 概算要求

本年度は、理科系修士A棟の改修工事を要求しましたが、不採択となった。

#### 6. その他の活動

##### (1) 広報活動

- 1) 環境科学専攻・持続環境科学専攻年報(通巻1号)をpdf版で発行した。また改訂した専攻要覧(パンフレット)・専攻ポスターを関係各方面に配布した。
- 2) インターネットの環境科学専攻・持続環境学専攻ホームページの内容の充実を図った。
- 3) 平成21年度10月期と2月期の入試に向けて研究科説明会を開催した。

##### (2) キャリアアップ支援

キャリア支援室より予算の配分があり、M1学生の就職活動のためのキャリアアップ支援を目的に、環境科学研究科(現環境科学専攻)修了生を講師に招き、「キャリアアップ支援後援会」を実施した。講師自身の就職活動およびその後の職場や社会での経験談を語っていただき、専攻学生の今後の学習、あるいは研究計画および就職活動等の進路の参考とさせた。

##### 1) 実施状況

- ① 企画名： 環境科学専攻キャリアアップ支援講演会
- ② 対象者： 環境科学専攻学生及び生命環境科学研究科学生
- ③ 実施日時： 平成21年 9月 29日 13:00～16:30
- ④ 参加者： 30名
- ⑤ 講師名： 計4名
- ⑥ 内 容： 環境科学研究科(現環境科学専攻)修了生2名を講師、就職活動家2名を招き学生の就職活動支援のために講演をしてもらった。

講演者自身の就職活動体験や実際の会社体験、あるいは就活専門家からの効果的な就職活動の方法を

説明してもらった。

## 2) 成果・課題

- ① 成果: 会社が求める学生像や実際の会社の採用情報が直接聞けるので有意義であった。また、就活専門家からエントリーシートをどのように書けばよいかの指導を受けるなど面白い試みもあり、講演会全体としては、今後の就職活動において得られるものが多かった。
- ② 今後の課題: 就職活動が始まる時期が10月1日であるため、より以前に開催する必要がある。  
講演者決定および日程調整に困難があった。